



遠藤さん 四年間  
ありがとうございました

エプロン通信員 遠藤 清美

平成十五年度拝命したエプロン通信員も早四年が経ち、今年度卒業させて頂いたことになりました。つたない文章ではございませんが、四年間、市消費生活相談室におけるトラブルに視点を当て、市民の方々の消費者教育を念頭に書かせて頂きました。内容に関する激励のお言葉やご助言、ご指導をいただくこともあり、全てが次の紙面への糧となりました。紙面掲載の機会をいただき、つたない文章に目を留めていただいた市民の皆様へ、深く感謝を申し上げ、お礼を申し述べる次第でございます。ありがとうございました。

遠藤さん、長い間ありがとうございました。お疲れ様でした。

平成九年度からは、新しく加わる木村さんを始め、引き続き、神賀さん、城間さん、宮里さんに活躍いただきます。

皆さん、今年度もよろしくお願ひします。

エプロン通信員 神賀 郷子

一昨年に紙面でお約束した倉浜衛生施設組合の取材を保留したまま、こうして通信員四年目を迎えさせていただきますました。昨年二〇月に出産し、乳児を抱えての今年度は、もつと身近な場所から同じテーマを発信したり紹介できたら、と思っております。

葉桜の緑が目にもまぶしい今日この頃。私も心新たに、新年度を迎えたいと思います。

エプロン通信員 城間 ちえみ

月日がたつのは早いもので、私がエプロン通信員になり早五年目を迎えました。

自分の原稿の番がくると締め切りぎりぎりまで言葉が洪水のように頭の中を駆け巡り、文章が活字になるまでの大変さを改めて感じています。でも言語に障害のある私にとっては、自分の言葉が文章になり、想いがきちんと多くの人に伝えられるこの仕事が最近面白く感じ始めてきました。今年度も宜しくお願ひします。

エプロン通信員 宮里 希見子

多くの人に支えられ、通信員をさせて頂いていると感じています。感謝の心を忘れずに、初心を忘れずに、さわやかに皆さんへ便りをお届けします。

六年目、心を落ち着け頑張りたいです。

ニューフェイス!  
木村さんです。  
よろしくお願ひします(^^)v



エプロン通信員 木村 美乃

四月から「新人」エプロン通信員として活動させていただきます。生まれも育ちも宜野湾市で、学生時代を除いてずっと宜野湾市民です。そして、実は私の母が二〇年前程に「初代」エプロン通信員をしていました。家事の傍ら食卓で原稿を書いていたのを思い出します。不思議な縁ですね。今度は私の番です。皆さまよろしくお願ひいたします。

茶

くわーゆんだく

36

戦後の出発・野嵩

一九四五(昭和二〇)年四月一日、沖縄島に上陸した米軍は、数日後には宜野湾村以北にまで達しました。進攻とともに占領地を拡大し、民間人を住民キャンプへと収容していた米軍は、四月四日、野嵩にも民間人収容所を設置しました。投降に応じ、生き残った宜野湾村民の多くが野嵩収容所へ収容されました。

収容所を設置する目的から、野嵩はほぼ戦災を免れていました。ほとんどの民家は戦前のまま残り、集落の木々は生い茂り、湧き水も豊富に流れていました。とはいえ、日本兵が民間人に扮し収容所に紛れ込んでいたり、日本軍の砲弾が飛び込んでくるなど、不安定な状況でした。間もなく野嵩に収容された人びとのほとんどが、北部や胡差・前原などの収容所へ移送され、宜野湾村民は各地に離散していきましました。首里の陥落以降は、那覇や島尻の人びとが多く野嵩に収容されましたが、その間も他収容所への移送は続けられ、日本政府が降伏する八月

十五日まで続けられたといえます。

同年一〇月、米軍政府は住民の再定住計画を発令、野嵩は宜野湾村民の受入キャンプに指定されました。各地に散らばっていた宜野湾村民は再び野嵩に集結し、一九四六(昭和二十一年)には普天間にもテント小屋が立ち並びました。野嵩普天間には那覇や北谷の人びとも多く、帰郷を待ちわびる二万人以上の人びとであふれかえり、野嵩は戦後の宜野湾の第歩を踏み出したのでした。



1946(昭和21)年頃 野嵩  
シーソーで遊ぶ子供たち

宜野湾市史への問い合わせ  
教育委員会文化課  
☎ 八九三―四四三三